

研究課題名:

病原体ゲノミクス・サーベイランスを基盤とした公衆衛生対策への利活用に係る研究

研究の目的と方法:

次世代シーケンサー(NGS)検査では、検体に含まれるあらゆる微生物の遺伝子情報を得ることができます。NGS 検査を行うことにより、原因不明症例で、原因となる病原微生物を特定することができるかも知れません。また、原因を特定できなくても、NGS 検査によって得られた情報をデータベース化していくことで、将来的に症状・病態と関連する微生物を明らかにできる可能性があります。この研究では、国立感染症研究所を中心にして、原因不明症例に対しての NGS 検査診断法を確立し、整備し、標準化していくことを目指します。そして、NGS 検査で得られた情報をデータベース化し、数年後にデータが集積された後、NGS 検査結果の検索ツールを開発し、NGS 検査データベースとして公開します。

研究の対象者及び対象期間:

令和4年12月6日から令和7年3月31日の研究終了までに、保健所、医療機関、研究機関などを通じて北海道立衛生研究所に急性脳炎の検査目的のために検体が搬入された感染者様

研究に利用する試料・情報:

急性脳炎の検査のために北海道立衛生研究所に提供された検体の残りを用います。個人の特定に繋がらない形で疫学情報、診療情報(発症日、試料採取日、症状・病態)を解析に用います。

研究機関:

北海道立衛生研究所、国立感染症研究所

試料・情報の管理について責任を有する者:

試料の管理:感染症部細菌グループ 主幹 池田徹也

情報の管理:感染症部細菌グループ 主幹 池田徹也

利益相反について:

本研究に関連し、開示すべき利益相反状態にある企業等はありません。

お問い合わせ先:

北海道立衛生研究所

感染症部細菌グループ主幹

池田徹也

〒060-0819 北海道札幌市北区北19条西12丁目

TEL:011-747-2711 FAX:011-737-9476